

厳しい寒さの中で

主任司祭 吉池 好高

厳しい寒さの中、体調を崩されている方も多いのではないかと案じています。この寒さの中、主日のミサにお集まりいただき皆様に心より敬服いたしております。

1月26日の信徒総会を経て秋山新教会委員長のもと、私たちの高円寺教会共同体も2014年の新たな歩みを始めています。新たな歩みと言っても、私たちの教会共同体の歩みが目指していることには、取り立てて真新しいことがあるわけではありません。秋山委員長のご挨拶にもあったように、主日のミサの参加者数が減少傾向にある現状に対する憂いを共有することから、新たな歩みを開始したいと思えます。このような現状認識は、私たちにとって決して心地よいものではないかも知れません。けれども、春を待つ営みは冬の厳しさに身を晒すことによってそのエネルギーを蓄えるのです。

毎週通う練馬の神学院の庭の植え込みには、他の季節には目立つことのない水仙の群落が昨年よりもわずかに広がりを見せて、小さな花を咲かせています。平田前院長が在任中に植えていった蠟梅の枝には無数の花芽がついて、日増しに色を濃くしています。

私たちの共同体の根に流れている信仰には、私たち自身が気付かぬほどの、大きなエネルギーが秘められているのです。御他聞にもれず、高齢化と人口減少の波に洗われている私たちの高円寺教会共同体の根に流れている私たちの信仰に秘められているエネルギーへの信頼を深めたいと思えます。私たちの共同体の根は主日ごとに祝うミサの神秘に根ざしています。主日のミサに集うことによって、私たちは、洗礼によっていただいている信仰のいのちの水脈を探り当てることが出来ます。ミサにおいて、私たちが洗礼によって受け入れたキリスト教の信仰の全てが網羅されて、湧出しているのです。

信仰年を経て迎えた新春、凍えるような寒さの中で、私たちの心の根先きをミサの中に溢れ出ているいのちのことばに向かって、精一杯伸ばして行きましょう。この一年のいしずえ巻頭言の紙面を借りて、御一緒にミサを味わってまいりたいと思っています。